

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 16 年 10 月 21 日 (2004.10.21)

【公表番号】特表 2000-500653 (P2000-500653A)

【公表日】平成 12 年 1 月 25 日 (2000.1.25)

【出願番号】特願平 9-519058

【国際特許分類第 7 版】

A 0 1 K 67/027

A 6 1 P 37/04

A 6 1 K 35/14

A 6 1 K 39/395

A 6 1 K 49/00

C 0 7 K 16/30

C 1 2 N 5/06

C 1 2 N 15/02

C 1 2 N 15/09

C 1 2 P 21/08

【F I】

A 0 1 K 67/027

A 6 1 K 31/00 6 3 7 C

A 6 1 K 35/14 C

A 6 1 K 39/395 M

A 6 1 K 49/00 Z

C 0 7 K 16/30

C 1 2 P 21/08

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 1 2 N 15/00 C

C 1 2 N 5/00 E

【手続補正書】

【提出日】平成 15 年 11 月 10 日 (2003.11.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】



手続補正書

平成15年11月10日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成9年特許願第519058号

2. 補正をする者

住所 アメリカ合衆国 ワシントン 98104, シアトル, コロンビア
ストリート 1124, スイート 464

名称 コリクサ コーポレイション

3. 代理人

住所 〒540-6015 大阪府大阪市中央区城見一丁目2番27号

クリスタルタワー15階

氏名 (7828) 弁理士 山本 秀策

電話 (大阪) 06-6945-3910



4. 補正対象書類名

請求の範囲

5. 補正対象項目名

請求の範囲

6. 補正の内容

6.1 請求の範囲を別紙のとおり補正します。

請求の範囲

1. ヒトの一次乳癌組織またはヒトの一次卵巢癌組織を含む免疫不全マウスであって、ここで該癌組織が該免疫不全マウスの性腺脂肪パッド内に移植される、免疫不全マウス。
2. ヒトの一次前立腺癌組織を含む免疫不全マウスであって、ここで該癌組織が該免疫不全マウスの性腺脂肪パッド内に移植される、免疫不全マウス。
3. 免疫不全マウスの性腺脂肪パッド内に、ヒトの乳癌標本またはヒトの卵巢癌標本をそれぞれ移植する工程を包含する、乳癌または卵巢癌のマウスモデルを作製する方法。
4. 免疫不全マウスの性腺脂肪パッド内に、ヒトの前立腺癌標本を移植する工程を包含する、前立腺癌のマウスモデルを作製する方法。
5. 前記方法が、前記免疫不全マウスにエストロゲンを投与する工程をさらに包含する、乳癌のための請求項3に記載の方法。
6. ヒトの乳癌組織または卵巢癌組織を増殖させる方法であって、以下の工程：
 - (a) 免疫不全マウスの性腺脂肪パッド内に、ヒトの乳癌標本またはヒトの卵巢癌標本をそれぞれ移植する工程；および
 - (b) 該癌を該免疫不全マウス内で増殖させる工程、を包含する、方法。
7. ヒトの前立腺癌組織を増殖させる方法であって、以下の工程：
 - (a) 免疫不全マウスの性腺脂肪パッド内に、ヒトの前立腺癌標本を移植する工程；および
 - (b) 該癌を該免疫不全マウス内で増殖させる工程、

を包含する、方法。

8. 乳癌または卵巣癌の治療の有効性を評価する方法であって、以下の工程：

(a) 免疫不全マウスの性腺脂肪パッド内に、ヒトの乳癌標本またはヒトの卵巣癌標本をそれぞれ移植する工程；

(b) 該免疫不全マウスを候補治療に曝露する工程；および

(c) 移植された標本の大きさの変化、腫瘍細胞死の程度、および／または該マウス内の転移の拡散のレベルを測定し、そしてそれから該候補治療の有効性を決定する工程、

を包含する、方法。

9. 前立腺癌の治療の有効性を評価する方法であって、以下の工程：

(a) 免疫不全マウスの性腺脂肪パッド内に、ヒトの前立腺癌標本を移植する工程；

(b) 該免疫不全マウスを候補治療に曝露する工程；および

(c) 移植された標本の大きさの変化、腫瘍細胞死の程度、および／または該マウス内の転移の拡散のレベルを測定し、そしてそれから該候補治療の有効性を決定する工程、

を包含する、方法。

10. 前記マウスがヌードマウスまたはSCIDマウスである、請求項1～4および6～9のいずれか一つに記載の方法。

11. 前記治療が免疫療法である、請求項8または9に記載の方法。

12. 前記治療が遺伝子治療である、請求項8または9に記載の方法。

13. 前記治療が食事療法である、請求項8または9に記載の方法。

1 4. ヒトの癌のマウスモデルを作製する方法であって、以下の工程：

(a) 第1の免疫不全マウスの性腺脂肪パッド内に、ヒトの癌標本を移植する工程であって、ここで癌は、乳癌、卵巣癌、または前立腺癌である、工程；

(b) 移植された癌標本の一部を取り出す工程；および

(c) 次に、第2の免疫不全マウス内に該一部を移植する工程、
を包含する、方法。

1 5. 腫瘍応答性のヒト細胞溶解性Tリンパ球を産生する方法であって、以下の工程：

(a) 免疫不全マウスの性腺脂肪パッド内に、ヒトTリンパ球を含むヒトの癌標本を移植する工程であって、ここで、癌は、乳癌、卵巣癌、または前立腺癌である、工程；

(b) 該免疫不全マウス内で、該ヒトTリンパ球を増殖させる工程；

(c) 該標本を保有する免疫不全マウスからヒト細胞溶解性Tリンパ球を単離する工程；および

(d) 該細胞溶解性Tリンパ球を癌細胞を殺傷する能力について評価し、そしてそれから腫瘍応答性のヒト細胞溶解性Tリンパ球を同定する工程、
を包含する、方法。

1 6. 抗腫瘍抗血清を産生する方法であって、以下の工程：

(a) 免疫不全マウスの性腺脂肪パッド内に、ヒトB細胞を含むヒトの癌標本を移植する工程であって、ここで癌は、乳癌、卵巣癌、または前立腺癌である、工程；

(b) 該免疫不全マウス内で、該ヒトB細胞を増殖させ、そしてヒト抗腫瘍抗体を産生する工程；

(c) 該免疫不全マウスから抗血清を単離する工程；および

(d) 該抗血清を癌細胞に結合する能力について評価し、そしてそれから抗腫瘍抗血清を同定する工程、
を包含する、方法。

17. 抗腫瘍性モノクローナル抗体を産生する方法であって、以下の工程：

(a) 免疫不全マウスの性腺脂肪パッド内に、ヒトB細胞を含むヒトの癌標本を移植する工程であって、ここで癌は、乳癌、卵巣癌、または前立腺癌である、工程；

(b) 該免疫不全マウス内で、該ヒトB細胞を増殖させ、そしてヒト抗腫瘍抗体を産生する工程；

(c) 該免疫不全マウスからヒト抗体産生B細胞を単離する工程；

(d) 単離されたB細胞からモノクローナル抗体を生成する工程；および

(e) 該モノクローナル抗体を癌細胞に結合する能力について評価し、そしてそれから抗腫瘍モノクローナル抗体を同定する工程、
を包含する、方法。

18. 前記移植工程の前に、前記免疫不全マウスがヒトリンパ組織を用いて再増殖される、請求項15～17のいずれか一つに記載の方法。